

第3章 計画が目指すもの

1 総合環境像

地域から地球に広がる環境行動都市

本市は、現在約 44 万人の人口を有する、県内有数の工業・商業都市である一方、台地・丘陵の起伏に富んだ地形、江の島の海食崖・岩礁、河川沿いの樹林地やさまざまな生物の生息・生育場所となっている谷戸などの多様な自然環境と、農地などと一体となった里山環境を維持している地域を有しています。

このように発展する都市の中で、環境にやさしい生活や事業活動を営みながら、自然環境を守り、次世代に伝えることが市民・事業者・行政に課せられた責任であるといえます。

さまざまな環境問題に対して「地球規模で考え、地域から行動を起こす。」(Think Globally, Act Locally) の視点に立ち、持続可能なまちづくりと脱炭素社会の創造を目指すとともに、市民・事業者・行政との協働・連携による、環境にやさしいまちづくりを推進し、豊かな地域資源や健全な地球環境を次世代へ引き継いでいきます。

◆江の島航空写真



■藤沢市の環境の将来イメージ





2 環境像

「地域から地球に広がる環境行動都市」の実現を目指し、本計画で扱う環境の範囲である「生活環境」、「自然環境」、「資源循環」、「環境教育・協働」、「地球環境」それぞれについて、環境の保全及び創造に向けた環境像を掲げます。

環境像1【生活環境】

快適な環境が将来にわたって適切に保全されるまち

大気、土壌・地下水、河川・海の公害を防止するとともに、騒音・振動・悪臭がない快適な生活環境を維持し、魅力のある自然・都市景観が形成され、文化的・歴史的資源が大切にされること。



■環境目標1-1 大気の保全

環境汚染のない、きれいな空気の中で健康的に暮らせること

■環境目標1-2 土壌・地下水の保全

環境汚染のない、きれいな土や地下水が確保されていること

■環境目標1-3 河川・海の保全

環境汚染のない、きれいな川や海が確保されていること

■環境目標1-4 騒音・振動・悪臭の防止

騒音・振動・悪臭が抑制され、快適に生活できること

■環境目標1-5 放射性物質への対応

放射性物質による汚染がなく、安全で安心な暮らしができること

■環境目標1-6 景観の保全・形成

藤沢ならではの景観が保全され、良好な景観が形成されていること

■環境目標1-7 文化的・歴史的資源の活用

文化的・歴史的資源の活用により、郷土意識が醸成されていること

環境像2【自然環境】

地域資源を活用し自然とふれあえるまち

河川部や台地、谷戸、海岸部などさまざまな姿で残る緑や引地川や境川の川辺など豊かな地域資源を市民・事業者・行政が協働で保全し、発展していく都市環境と調和しながら存続すること。



■環境目標2-1 緑と里山の保全

豊かな緑が保全・再生され、水と緑が調和した自然にふれあえること

■環境目標2-2 生物多様性の保全

自然環境に配慮し、都市環境と豊かな自然とが調和していること

■環境目標2-3 新たな緑の創出

新たに緑が創出され、潤いのある生活がおくれること

■環境目標2-4 農水産業との共存

安全・安心な食を身近で確保するための地産地消が実践されていること

環境像3【資源循環】

資源を持続可能な形で循環し利用していくまち

ごみの発生が抑制され、限りある資源を有効に使う環境への負荷が少ない生活や事業活動が浸透し、県や周辺自治体と連携した適正な処理により、持続的な発展を続けられること。



■環境目標3-1 廃棄物の発生・排出抑制

廃棄物の発生・排出抑制を進め、環境負荷が低減されていること

■環境目標3-2 廃棄物の適正な処理

廃棄物の適正な処理を進め、循環型社会が形成されていること

環境像4【環境教育・協働】

次の世代の中心となって活躍する人が育つまち

市民一人ひとりが環境に関する正しい知識と理解を深め、自ら実際に行動し、市民・事業者・行政の各主体が協働・連携して環境保全・環境美化に幅広く積極的に取り組むとともに、本市の豊かな地域資源や健全な地球環境が次世代へ引き継がれていくこと。



■環境目標4-1 環境教育の推進

市民・事業者・行政で、環境を意識した行動が広がっていること

■環境目標4-2 各主体による環境保全・環境美化

市民・事業者・行政が協力して、さまざまな環境保全・環境美化が展開されていること

環境像5【地球環境】

環境にやさしく地球環境の変化に適応したまち

みんなが環境に配慮した省エネ行動を実践している新しい生活様式やエネルギーの地産地消、環境にやさしい都市システムの構築により、脱炭素社会が実現されているとともに、気候変動による影響を評価・低減し、環境の変化に適応したまちづくりがなされていること。



■環境目標5-1 省エネルギー対策の推進

脱炭素型のライフスタイルや省エネ設備の導入により、省エネルギー対策が進んでいること

■環境目標5-2 エネルギーの地産地消

再生可能エネルギーの活用により、エネルギーの地産地消が実現されていること

■環境目標5-3 環境にやさしい都市システムの構築

環境への負荷を低減した都市システムにより、脱炭素社会が実現されていること

■環境目標5-4 循環型社会の形成

廃棄物の発生・排出抑制及び適正処理が進み、循環型社会が形成されていること

■環境目標5-5 気候変動への適応

地球温暖化に伴う影響を評価・低減し、気候変動に適応していること

3 計画の施策体系

地域から地球に広がる環境行動都市

環境像 1

快適な環境が
将来にわたって
適切に保全されるまち

環境目標 1-1 大気の保全

環境汚染のない、きれいな空気の中で健康的に暮らせること

環境目標 1-2 土壌・地下水の保全

環境汚染のない、きれいな土や地下水が確保されていること

環境目標 1-3 河川・海の保全

環境汚染のない、きれいな川や海が確保されていること

環境目標 1-4 騒音・振動・悪臭の防止

騒音・振動・悪臭が抑制され、快適に生活できること

環境目標 1-5 放射性物質への対応

放射性物質による汚染がなく、安全で安心な暮らしができること

環境目標 1-6 景観の保全・形成

藤沢ならではの景観が保全され、良好な景観が形成されていること

環境目標 1-7 文化的・歴史的資源の活用

文化的・歴史的資源の活用により、郷土意識が醸成されていること

環境像 2

地域資源を活用し
自然とふれあえるまち

環境目標 2-1 緑と里山の保全

豊かな緑が保全・再生され、水と緑が調和した自然にふれあえること

環境目標 2-2 生物多様性の保全

自然環境に配慮し、都市環境と豊かな自然とが調和していること

環境目標 2-3 新たな緑の創出

新たに緑が創出され、潤いのある生活がおくれること

環境目標 2-4 農水産業との共存

安全・安心な食を身近で確保するための地産地消が実践されていること

環境像 3

資源を持続可能な形で
循環し利用していくまち

環境目標 3-1 廃棄物の発生・排出抑制

廃棄物の発生・排出抑制を進め、環境負荷が低減されていること

環境目標 3-2 廃棄物の適正な処理

廃棄物の適正な処理を進め、循環型社会が形成されていること

環境像 4

次の世代の中心
となって活躍する人が
育つまち

環境目標 4-1 環境教育の推進

市民・事業者・行政で、環境を意識した行動が広がっていること

環境目標 4-2 各主体による環境保全・環境美化

市民・事業者・行政が協力して、さまざまな環境保全・環境美化が展開されていること

環境像 5

環境にやさしく
地球環境の変化に
適応したまち

環境目標 5-1 省エネルギー対策の推進

脱炭素型のライフスタイルや省エネ設備の導入により、省エネルギー対策が進んでいること

環境目標 5-2 エネルギーの地産地消

再生可能エネルギーの活用により、エネルギーの地産地消が実現されていること

環境目標 5-3 環境にやさしい都市システムの構築

環境への負荷を低減した都市システムにより、脱炭素社会が実現されていること

環境目標 5-4 循環型社会の形成

廃棄物の発生・排出抑制及び適正処理が進み、循環型社会が形成されていること

環境目標 5-5 気候変動への適応

地球温暖化に伴う影響を評価・低減し、気候変動に適応していること